

JA全農ウィークリー

J A Z E N - N O H W E E K L Y



6-7面

スタートアップインタビュー
サグリ株式会社
代表取締役CEO
坪井俊輔さん(広報・調査部)

2面

「仙台いちご」
沖縄県で初の本格販売
(宮城県本部)

Web版
JA全農ウィークリーは
こちらから

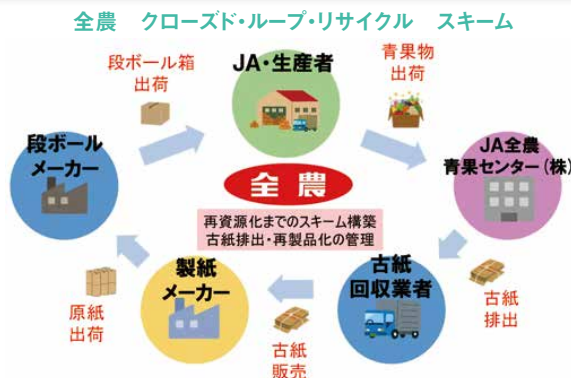


<https://www.zennoh-weekly.jp/>

クローズド・ループ・リサイクル構築へ

営農・技術センターで段ボール古紙の利活用実証

耕種資材部



段ボール箱は、段ボール古紙を主原料として製造されます。日本では古紙循環の仕組みが確立しているため回収率が95%以上と高く、リサイクルの優等生とされています。しかし、昨今ネット通販などの拡大により、国外での製紙・段ボール工場の新設が相次ぎ、段ボール古紙の国外流出が増加し、国内

全農は、貴重な国内資源である段ボール古紙の国外流出を抑制し、国内古紙循環の仕組みを維持することを目的に、段ボール原紙・段ボール箱のクローズド・ループ・リサイクル※の構築に向けた取り組みを行っています。営農・技術センターでも新たな試験を始めました。

段ボール古紙資源の減少が危惧されています。

そこで全農は2022年2月から、JA全農青果センター(株)から排出される段ボール古紙が国内製紙工場に確実に循環されるよう、新たに排出先・数量を認識するクローズド・ループ・リサイクルの取り組みを開始しました。今回、同様の取り組みを、年間500試験区以上の段ボール原紙や段ボール箱の試験を実施する営農・技術センターでも開始しました。

将来的には、他の全農グループ会社およびJAグループにも拡大が可能なスキームを構築し、段ボール箱の安定供給に努めていきます。

※「クローズド・ループ・リサイクル」とは、不要となった製品を同じ素材として再生し、限定されたサプライチェーン内で同等の製品に戻すリサイクル方法です。

「仙台いちご」沖縄県で初の本格販売

航空便で産地直送 新鮮で珍しい品種がズラリ

宮城県本部



大勢の買い物客でにぎわうイチゴ売り場

「仙台いちご」は震災後の2012年に知名度向上、ブランド化による品質向上効果への期待、宮城の風土に合った品種選定といった目的により、地域団体商標に登録され、現在東北・関東および北海道を中心に流通しています。

宮城県本部と全農東北プロジェクトは3月11、12日、JAおきなわが運営するうまんちゅ市場で「東北復興祭」仙台いちごフェア」を初開催し、JAみやぎ巨理産の「もついつん」と「にこにこベリー」を販売しました。



ズラリとならぶ「仙台いちご」

「仙台いちご」の販売が実現しました。売り場は「産地直送」沖縄・九州地方では珍しい品種などの魅力的なキャッチコピーで飾り、前日に出荷されたばかりの新鮮なイチゴが並びました。買い物客からは「初めてみた品種」「赤くて粒が大きい」などの声も聞かれ、2日間で1200パックが完売しました。今後も航空便を活用し、東北産品の販路拡大に取り組んでいきます。

東京・築地で親子招いて料理教室

「おコメ食べて笑おう」プロジェクトで魅力発信

米穀部



料理教室で熱心に話を聞く参加者

「おコメ食べて笑おう」プロジェクトについてはこちら



全農は同プロジェクトの活動を通じて、日本人の文化・食生活に不可欠な米について楽しく知る機会を提供し、米の魅力を発信します。

「おコメ食べて笑おう」プロジェクトは、企業・団体・大学・行政などが業界・業種の垣根を超えて連携し、持続可能な循環型社会の実現に向け協働するプロジェクトです。料理教室には2日間で10組25人の親子が参加。築地オリジナル「マゴロの漬け丼」作りを通じて、米の品種やおいしいごはんの炊き方を学びました。

全農は、「おコメ食べて笑おう」プロジェクトの連携企画として、NPO法人築地食のまちづくり協議会、新潟県と共催で、3月24、25日に東京・築地で「お米について楽しく学べる親子料理教室in築地」を開催しました。

東海3県のセブン-イレブンで「ぎふフェス」

岐阜県産農畜産物を使った限定商品6種を販売

岐阜県本部



岐阜県産農畜産物を使った新商品6種をお披露目

期待を込めました。

県本部が一部原材料の県産農畜産物を供給している新商品「岐阜県産ほつれん草とツナの胡麻マヨ和え」や県産「清流美どり」を使用した「鶏ちゃん丼」などを試食した雨宮功治県農政部長は、「とてもおいしく、家の帰りに店舗に寄りたくなる。ぜひ岐阜県産農畜産物の付

岐阜県と同社は地産地消の推進や生産者を応援する取り組みとして2008年から地域活性化包括連携協定を結んでいます。今回は「ぎふフェス」と題して限定商品6種を用意し、県庁で新商品のお披露目会を行いました。

岐阜県本部は(株)セブン-イレブン・ジャパンと連携し、岐阜県産農畜産物を使用した限定商品の販売を3月下旬から岐阜・愛知・三重エリアのセブン-イレブン店舗で開始しました。

秋田県立大学新入生を「食」で応援

県産「サキホコレ」使用のバックライス贈る

秋田県本部



プレゼントした「バックライス」と「北限の桃グミ」

いきま



新入生を激励しながらプレゼントを配る職員

と約500

職員が「ご入学おめでとうござい

秋田県本部は秋田県立大学の新入生に「食」でエールを贈る企画として、4月6日、秋田市内で行われた入学式で県産「サキホコレ」を使用した「バックライス」と、J A 全農オリジナル商品「ニッポンエール秋田県産北限の桃グミ」をプレゼントしました。

News!

JAにいがた岩船 ギャルビオでDX推進

稲作での導入効果を検証し全国モデルとして発信

耕種総合対策部

ギャルビオを操作するJAにいがた岩船の担当者



全農は、新潟県のJAにいがた岩船から栽培管理支援システム「ギャルビオ®フィールドマネージャー」(以下、ギャルビオ)という導入の相談を受け、ギャルビオの販売元であるBASF ジャパン(株)と連携しながら管内への一括導入を実施しました。

同JAは、地域ブランド「岩船米コシヒカリ」の品質や収量の高位安定化を目指し、人工衛星データとAI(人工知能)解析をもとに日々の生育むらや地力むら、病害予測などをパソコンやスマホで確認できるギャルビ

オを管内の水稲栽培面積約4700畝に全面的に導入しました。

導入までにBASFジャパンとJA職員とで連携しながらJAの営農指導の実態や課題を細かく確認し、ギャルビオの生育マップや病害

発生予測による営農指導業務の効率化や資材提案の機会創出など、「岩船米コシヒカリ」のブランド維持や生産者の農業所得増大に向けた運用方法を提案しました。

同JAの2023年度水稲シーズンの運用を通して、ギャルビオ導入効果を明らかにし、営農指導業務の高度化・効率化を目指したDX(デジタルトランスフォーメーション)モデルとして全国に発信していきます。

News!

ニッポンの酪農を応援 練乳の需要創出へ

サンドイッチハウスメルヘンとのコラボ商品販売

経営企画部・酪農部

全農は(株)メルヘンと共同開発した2商品を、4月14日からサンドイッチハウスメルヘン全28店舗で販売しました。

この商品は、2022年12月末に発生した生乳の需給緩和による余乳処理のため、関東生乳販連が委託し製造した練乳の需要創出を目的に、メルヘンの理解と協力を得て開発しました。

サンドイッチハウスメルヘンは創立40年のサンドイッチ専門店。駅ナカやデ



共同開発商品の「練乳いちごみかん生クリーム」460円(税抜き)(左)と「練乳いちご生クリーム」460円(税抜き)

パ地下の店内厨房で作るバラエティーに富んだサンドイッチが特徴です。今回の商品は砂糖の代わりに練乳で甘さを加えた「練乳いちご生クリーム」460円(税抜き)と「練乳いちごみかん生クリーム」460円(税抜き)で、6月下旬までの販売を予定しています。

商品に添付した2次元コードを読み込むと酪農部運営の「牛乳トリビアクイズ」に移動し、クイズ方式で酪農の基礎知識を楽しく学ぶことができます。全農は、牛乳・乳製品の需要創造と消費者への「酪農応援への取り組み」の認知度拡大を図っていきます。



酪農部運営の「牛乳トリビアクイズ」はこちらから

令和4年度

JAグループ農機サービス士 **45人** を認定

スキルアップで信頼される農機事業に活躍

全農は、令和4年度JAグループ農業機械検定の1級合格者4人、2級合格者41人を新たにJAグループ農機サービス士として認定しました。



検定に向けた1級の事前講習(電装パネル)



2級のトラクター実技試験

JAグループ農業機械検定は、JA農機担当者の経験年数に応じた知識・技能の習得を目的として、実際の修理・整備に必要な知識・技能や、メーカー固有の機構・新技術、納品・安全指導など、より業務に密着した内容を試験に取り入れて実施しています。

4年度は1級41人、2級109人が受検し、学科試験と実技試験の両方で合格基準に達した1級4人(合格率10%)、2級41人(合格率38%)をJAグループ農機サービス士として認定しました。JAグループ農業機械検定は、平成23年度から実施しており、今回の合格者を含め、累計447人(1級81人、2級366人)のサービス士が全国の農機センターで活躍しています。

この検定により、農機担当者のスキルアップを促し、農家に信頼されるJAグループ農機事業の体制づくりに取り組んでいきます。令和5年度のJAグループ農業機械検定は、6月公示、11月学科試験の予定です。

令和4年度 JAグループ農機サービス士 認定者一覧

等級	氏名	県名	所属
1級	寺崎 誠治	佐賀	JAさが
	石川 翔太	岩手	全農岩手県本部
	伴 拓樹	滋賀	全農滋賀県本部
	川中 弘樹	山口	全農山口農機事務所
	酒井 茂則	岐阜	JAひがしみの
	伊藤 雄二	岐阜	JAひがしみの
	林 和宏	岐阜	JAひがしみの
	川口 和康	三重	JA伊勢
	清水 貴大	三重	JA伊勢
	福井 正樹	三重	JA伊勢
	有廣 真斗	広島	JA広島中央
	下満 弘貴	広島	JA広島中央
	島崎 洋幸	佐賀	JAさが
	佐藤 哲也	佐賀	JAさが
松石 隆幸	佐賀	JAさが	
2級	瀬戸 敏博	鹿児島	JA鹿児島県経済連
	田村 満	福島	全農福島県本部
	菅田 泰弘	福島	全農福島県本部
	吉田 亘	福島	全農福島県本部
	吉田 悟	栃木	全農栃木県本部
	三村 仁志	栃木	全農栃木県本部
	渡邊 朋宏	栃木	全農栃木県本部
	荻原 伸斗	群馬	全農群馬県本部
	島崎 慎吾	東京	全農東京都本部
	伊賀 裕希	石川	全農石川県本部
	田口 裕嗣	滋賀	全農滋賀県本部
	島田 穰	島根	全農島根農機事務所
	松本 博樹	島根	全農島根農機事務所
	福井 聖	島根	全農島根農機事務所
	竹内 清貴	島根	全農島根農機事務所
	櫻井 啓輔	島根	全農島根農機事務所
	目黒 温樹	島根	全農島根農機事務所
	市川 昂紀	広島	(株)全農アグリサポート広島
	中田 秀正	広島	(株)全農アグリサポート広島
	廣元 諭	広島	(株)全農アグリサポート広島
	丸山 翔平	山口	全農山口農機事務所
溝田 良史	徳島	全農徳島農機事務所	
宮本 康平	徳島	全農徳島農機事務所	
走出 昌典	徳島	全農徳島農機事務所	
井出 涼介	愛媛	全農愛媛県本部	
隈元 淳	本所	全農本所	
網中 裕輔	本所	全農本所	
神山美妙子	本所	全農本所	
和田 拓晃	本所	全農本所	
小谷野佳也	本所	全農本所	

※所属は令和5年3月22日認定日当時の記載



「サグリ」の圃場管理アプリケーションの例

衛星データをAIで解析し 農地や作付け情報を提供

サグリ(株)代表取締役CEO 坪井俊輔さん

アクセラレータープログラム第4期に採択されたサグリ株式会社は岐阜大学発のベンチャー企業で、衛星データと人工知能(AI)を活用して農業課題を解決することを目指しています。代表取締役最高経営責任者(CEO)の坪井俊輔さんに話を聞きました。

【広報・調査部】

行政向け
「アクタバ」「デタバ」
生産者・指導員支援に
「サグリ」

事業について
教えてください。

現在、衛星からさまざまなデータを取得することができるようになりました。その衛星データをAI(機械学習)の技術を使って解析する

ことで、地上の農地がどのような状況になっているのかを予測しています。いかに教師データ(機械学習に利用する地上の現場のデータ)を作りながら向上させるかというのが重要で、そこが当社の強みでもあります。

この技術を使い、行政向けの調査アプリケーション「アクタバ」「デタバ」、生産者や営農指導員向けのソリューション

ションとして土壌分析ができる「サグリ」を展開しています。いずれもパソコンやタブレット、スマートフォンなどで管理することができます。

三つのサービスについて特徴を
教えてください。

「アクタバ」は耕作放棄地を探すことができるアプリケーションで、主に行政向けに展開しています。各市町村の農業委員会は農地法に基づき、毎年農地を調査しています。耕作放棄地か否か、今までは実際に人の目で見て確認し紙の台帳を作って管理していましたが、「アクタバ」を使うことで調査の効率化を図れたり、デジタルデータ

で管理したりすることが可能です。

また「デタバ」は水田の転作作物が、例えば麦なのか大豆なのか野菜なのか、作付け状況を確認することができます。生産者から申請されている作物と乖離がある農地を色付けして示すので、確認のためにすべての圃場を訪問する必要がありません。どちらも農地管理の効率化を目的としています。

そして「サグリ」は衛星データから作物の生育状況や土壌の特性を知ることができます。これは岐阜大学の技術を応用して開発しました。従来の土壌分析は土を採取し解析するため、時間や手間、分析費用もかかります。



代表取締役CEOの坪井俊輔さん

「サグリ」は圃場を登録することで、その圃場の土壌のpHや可給態窒素、陽イオン交換容量（CEC：Cation Exchange Capacity）、全炭素の4項目について推定することができます。生産者は現場での手間をかけずに、いつでも土壌を分析できることが

特徴です。また、時間の変化に沿って生育状況を確認することもできます。「サグリ」の生育分析や土壌分析から適切な施肥設計を行えるので、肥料コスト高騰による経費削減や環境に配慮した農業に取り組む際にも有効なツールとなります。

「サグリ」の利用者は？

例えば70枚の圃場で使っているという生産者もいれば、数枚の圃場から始める人もいます。法人や個人、規模など問わず、さまざまな人が使えるように設計しています。現時点で、国内での登録農地は47都道府県にわたります。

アクセラレーターに参画してどうでしたか。

採択期間中に「デタバ」と「サグリ」をリリースしました。アプリケーションを全国へ普及するという大きなミッションがあり、そのユーザー候補となる生産者の声をヒアリングすることができました。また、ホクレンや全農石川県本部との実証試験で、腐植指数やpHなどの精度、石灰やリン酸、腐植などの有効性が確認できたことは当社にとって大きかったと思います。

JAグループのシステムと連携「ザルビオ」「サグリ」の実証も

JAグループと取り組みたいことは？

まずは当社のアプリケーションを使ってもらいたいということはもちろんですが、同じく衛星データとAIを活用した栽培支援管理システム「ザルビオ®フィードマネージャー」と「サグリ」の連携を実証していきたいと考えています。「ザルビオ」は作物の生育状況や病害・雑草の発生、地力などを見ることが出来ます。「サグリ」の強みは土壌分析ができる点なので、双方の強みを生かし、生産者の営農をよりサポートしていくことができると思っています。

今後の展開を教えてください。

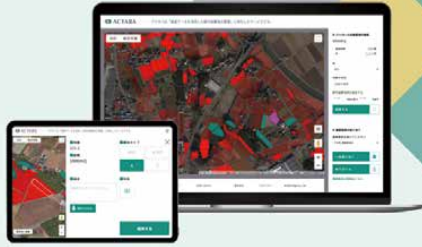
2030年の中期では1億人の農家に提供することを目指しており、衛星であ

ればそれほど大きなハードルにはならないと考えています。いろいろな国で誰もが使える状況にしていきたいという目標を掲げて進めています。現在、東南アジアやインド、アフリカ、ブラジルなどでもサービスを展開しています。

日本は農家数が少ないため、諸外国に比べ食料安全保障や離農の課題があったりしますが、一方で日本農業が誇るブランド力やおいしさ、農地管理に対するデジタル技術では非常に先進的な部分もあります。スマート農業も含め、日本農業は海外の農業を置き換えていくポテンシャルがあると考えているので、海外農業に影響を与えられるよう、日本の農業に貢献していきたいと思っています。そして日本をはじめ、世界で農業が持続される環境を作っていくと考えています。

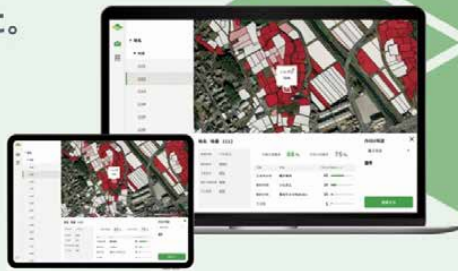
耕作放棄地がひと目でわかる
農地パトロールアプリ

アクタバ



作付け調査をもっとカンタンに。

デタバ



農地管理を効率化する「アクタバ」

作付け状況の確認に役立つ「デタバ」

サグリ(株)の
サイトはこちら



香港の学校給食に日本産米を供給

中学校で出前授業 需要拡大へ理解促進・食育も

全農インターナショナル香港(株)は、香港の学校給食向けに日本産米の供給を開始しました。併せて日本産米への理解促進・食育を目的として、香港内の中学校で出前授業も実施しました。 **【輸出対策部】**



米が育つまでを説明した出前授業



おむすび作りに挑戦する生徒

香港では、日本産米の輸出量が年々拡大していますが、多くは外食向けに消費されています。今回新たな需要拡大を目的として、香港の小中学校30校に給食用の日本産米を供給しました。期間は2023年2月から約2カ月間で、約20トﾝが消費されました。

また、合わせて日本産米の理解促進・食育を目的として、香港の中学校で出前授業も実施しました。JA新潟かがやきの協力のもと米が育つまでの様子の説明や、卵などの日本の食材を用いたおむすび作りに挑戦してもらいました。ハート形や星形のおむすびを作る生徒もいて、楽しく日本産米の魅力を学びました。

優勝選手に

三重県産「コシヒカリ」贈呈

男子ゴルフツアー開幕戦の副賞として600キ

三重県本部は4月2日に開催されたJAPANゴルフツアー開幕戦「東建ホームメイトカップ2023」で優勝した今平周吾選手に、副賞として三重県産「コシヒカリ」600キを贈呈しました。 **【三重県本部】**

4年ぶりに有観客となった今大会は、トッププロら132選手が出場し、3月30日から4月2日に桑名市多度町の東建多度カントリークラブ・名古屋で予選・決勝ラウンドが行われました。

大会最終日に行われた表彰式で、見事優勝に輝いた今平選手に県本部の谷口俊二運営委員会会長が目録に代えて米俵を手渡しました。

県本部の県産米贈呈は17回目。全国から注目される大会で、会場やメディアを通じて三重県産米を広くPRし、認知度向上と消費拡大につなげていきたいと考えています。



今平選手に米俵を手渡す谷口会長



会場に設置された副賞看板

JA全農の産地直送通販サイト

JAタウン ショップ紹介

JA全農ちば 愛情いちばん館

「ながいき玉ねぎ」は、千葉県九十九里の温暖な気候の下、砂地で栽培している早出しタマネギです。タマネギは1年中食べることができる野菜の一つですが、4月から5月ごろまでは新タマネギと呼ばれるみずみずしく柔らかいものが出回ります。

この時期にしか味わうことができない新鮮な新タマネギは、辛みが少なく甘みが強いのでサラダなど生食がおすすめ。スライスしたら水にさらさず、しばらくそのまま置いてお召し上がりください。もちろん火を通して調理してもおいしく食べることができます。



JA長生 ながいき玉ねぎ10kg(L~2L) 20~38玉
……4300円(税込み)



ご注文はこちらから

▶ JAタウンはこちらから <https://www.ja-town.com>
▶ お問い合わせは shop@ja-town1.com